

平成 25 年度通常(第 3 回)理事会議事録

日 時： 平成 25 年 12 月 7 日（土） 11：00～16：15

場 所： 岸記念体育館 1 階 101 会議室

出席理事：(敬称略、順不同)

河野博文、西岡一正、植松眞、森山雄一、中川千鶴子、前田彰一、鈴木修、児玉萬平、齋藤涉、鈴木國央、山田州子、末木創造、中澤信夫、相澤孝司、平井昭光、坂谷定生、高間博之、山本嘉一、守本孝造、井川史朗、剥岩政次

以上 21 名

出席監事：浪川宏、栗原博、中村隆夫

以上 3 名

オブザーバー：堤智章国際委員長、柳澤康信広報委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、小山泰彦指導者委員長、斉藤威普及委員長、吉田豊外洋計測委員長、安藤正雄事業開発副委員長、角野吉則事業開発副委員長、オリンピック準備委員会委員（入部透・大庭秀夫・北詰良平）

議事の経過及び結果

(定足数の確認)

理事 26 名、出席者 21 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

(議長による開会宣言)

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 25 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、末木創造、高間博之の両理事が任命された。

河野会長から、2020 年東京オリンピックを全面的に協力する。故・松原宏之理事の黙祷がされた。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 26・27 年度理事・監事候補推薦手続（管理委員会の設置等）

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 26・27 年度理事・監事候補者の選任手続について説明があった。

2014 年 6 月理事・監事任期満了に伴う、平成 26・27 年度理事・監事候補者の評議員会への推薦手続は別紙日程に従って進める。理事推薦候補者の評議員会への提出に関する一連の手続きは、理事及び監事推薦候補者管理委員会が行う。理事候補者の推薦数は、水

域推薦候補者 13 名、全国加盟団体代表者会議の推薦候補者 9 名（定員超過の場合は、推薦投票実施）、会長による推薦候補者 5 名とする。また、会長から推薦された理事及び監事推薦候補者管理委員は、伊藤宏氏、青淵隆督氏、平賀威氏を選任した。監事候補者は定款に定める監事定数（1～3 名）内で会長が候補者を推薦するとの発言があった。

坂谷理事から、全国加盟団体代表者会議の理事推薦候補者が 8 名に満たない場合は追加応募をするのか。追加応募の結果、8 名を超過した場合は最初の候補者も含めて全体で選挙を開催するのか質問があった。

鈴木常務理事から、役員推薦候補者管理委員と確認して、最初の候補者も含めて全体で選挙をする方向であるとの回答があった。

前田専務理事から、役員推薦候補者の選任手続きならびに役員推薦候補者管理委員 3 名の承認をいただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 平成 25 年度定期表彰

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 25 年度定期表彰に係わる実施について説明があった。

平成 25 年度定期表彰受賞候補者推薦書につき、JSAF 総務委員会及び常任委員会で可否確認をした表彰種別と審議対象者は、功労賞 4 名（伊藤雅宣氏、小山泰彦氏、平久保長蔵氏、水谷益彦氏）功績賞 2 名（沖尚武氏、小野一臣氏）優秀指導者賞 3 名（竹之内一昭氏、宮野敏行氏、渡邊健二氏）栄光賞 1 名（高橋祐一氏）優秀競技者賞 3 名（市川航平氏、北田浩氏、平井昭光氏）を取り纏めた。2014 年 1 月 25 日開催の全国加盟団体代表者会議において表彰するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 加盟団体分担金未納団体への対応

鈴木常務理事から資料に基づき、加盟団体分担金未納団体への対応について説明があった。

公益法人としての運営を、定款・規則に則り適正に行う観点から、加盟団体分担金未納団体の取扱は、加盟団体分担金が 3 年間連続して未納の団体は、JSAF 運営規則の規定に従い、理事会ならびに評議員会の同意を得て加盟資格を取り消すこととする。なお、諸事情により、新たに休眠団体とすることを希望する加盟団体は、これを認めることとする。今回の措置実施にあたり、本年度分を含めて 3 年間分担金未納の団体には、J-SAILING、JSAF-HP 等により、最終催告を行う。また、本取扱により JSAF 加盟資

格を取り消された団体を経由して JSAF 会員となっているものに対しては、JSAF として同一水域内他加盟団体への移管手続を支援することとする。前回理事会議論に基づいて JSAF の姿勢をみせることが必要である。現在確認している 3 年間未納団体については団体と確認が取れており対応済であるとの発言があった。

平井理事から、休眠団体扱いにするのは JSAF 総務委員会決定かとの質問があった。

坂谷理事から、特別加盟団体の要件であるメンバー 20 名以上は、再度全加盟・特別加盟団体の実態を把握し、それから次のステップに移っていただきたいとの発言があった。

守本理事から、加盟資格を取消された団体のメンバーは、同一水域内他加盟団体への移管手続を支援するとは、外洋団体の移管先は同水域内の県連に移管することになるのか。外洋団体は他外洋団体へ移管できないかとの質問があった。

児玉常務理事から、本部会員扱いに便宜上してから、所属団体を決定する方法をとるなど検討が必要であるとの発言があった。

剝岩理事から、過去の理事会においても外洋加盟団体の水域再編は必要との議論がされているので水域再編を優先させたいとの発言があった。

児玉常務理事から、個々のメンバーに水域の実態が伝わっていないことは問題で、JSAF ホームページや J-SAILING で実態を公表することが大切であるとの発言があった。

鈴木常務理事から、総務委員会と外洋総務委員会で協議するとの発言があった。

前田専務理事から、外洋団体の水域再編は外洋団体代表者で検討していただきたいとの発言があった。

山田理事から、未納加盟団体の国体出場資格が問題となるとの発言があった。

前田専務理事から、加盟団体分担金未納団体は公表して催促することとする。今回、分担金未納の対象団体は解決済で公表はしないとの発言があった。

満場一致で承認された。

4) 4 年制会員の復活

鈴木常務理事から資料に基づき、4 年制会員の復活について説明があった。

5 年前まで運用していた 4 年制会員の復活は、継続的に会員登録をされないケースなど現行の単年度会員だけの弊害があった。会員にとっても毎年の更新手続の煩雑さから開放される。また、各委員会が運用する資格制度の運用からもメリットがある。開始時期は、平成 26 年 4 月 1 日からとするとの発言があった。

森山副会長から、4 年制会員の会費返金はしないのかとの発言があった。

高間理事から、過去には 4 年制会員を廃止した経緯があったが、4 年制会員の復活は賛成であるとの発言があった。

坂谷理事から、外洋団体は単年度の会費自動引落をしている団体が多いことから、4年制会員制度は団体で活用するか選択できることとして復活させていただきたいとの発言があった。

前田専務理事から、過去に4年制会員を廃止した経緯は、単年度会費で会計上の問題があった。3年分の預かりとして正味財産上で運用するが、収支上は単年度会費計上となる。それゆえ各加盟団体で預かり計上していただきたいとの発言があった。

増田ルール委員長から、資格管理上では毎年の更新ではなく、オリンピック開催に合わせた限定としていただきたい。ルール委員会資格管理上、会費確認の事務作業は減少するとの発言があった。

中澤理事から、4年制会員を復活していただき、クラス協会でも年度会費を確認できる制度をお願いしたいとの発言があった。

児玉常務理事から、4年制会員を選択するかは会員個人の任意と理解しているが、加盟団体として4年制会員を適用・運用を決定するののかとの質問があった。

斎藤理事から、連盟公益法人会計上は3年分の預かりで問題ないと理解しているとの発言があった。

植松副会長から、会員管理システム改善を会員検索機能も考慮しているとの発言があった。

前田専務理事から、4年制会員の選択は個人意思とし、会計上の問題は顧問会計士に相談することとして原則承認とするとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) サポート会員の新設

鈴木常務理事から資料に基づき、サポート会員の新設について提案があった。

現行の会員制度の準会員制度としてサポート会員制度を新設する。レース等の大会運営参加者や体験セーリング参加者にサポート会員になっていただき、JSAFを支える意識を持ってもらうことを目的とする。また、2020年東京五輪準備委員会で検討するボランティアでの参加を希望する方なども対象としたい。運用は、現JSAF会員登録以外で年会費3000円とするとの発言があった。

斎藤理事から、サポート会費内訳で2000円を団体会費とする説明をいただきたいとの質問があった。

鈴木常務理事から、加盟・特別加盟団体に還元し、地元で協力することであるとの回答があった。

坂谷理事から、サポート会員は1年間だけの制度として、2年目はJSAF正規会員とするべきである。クルーザーのオープンレースではJSAF会員でなくても参加できることから整合性を考えていただきたいとの発言があった。

鈴木常務理事から、オープンレースの参加資格問題は、全日本レベルレースに近づけることで今後はJSAFの姿勢をみせていきたいとの発言があった。

坂谷理事から、サポート会員を義務付けることでオープンレースを開催し、JSAF正規会員に誘導することにするのかとの質問があった。

鈴木常務理事から、会員増強プロジェクトとしての提案はオープンレース参加者とは切り離して考えているとの回答があった。

中澤理事から、サポート会員メリットを説明できない。内容を再度吟味する必要があるとの発言があった。

前田専務理事から、ワンデイ会員やファミリー会員、サポート会員に現会員が流れるのは問題で検討が必要であるとの発言があった。

相澤理事から、制度内容から取り扱いはJSAF本部では受け付けないとするのを検討していただきたいとの発言があった。

鈴木理事から、ジュニア・ユース選手の保護者の方々には有効な制度になるのではとお発言があった。

河野会長から、まずはルールを厳守してJSAF会員になっていただくことが優先である。指導者等への会員義務付けも必要である。東京オリンピック準備委員会でもボランティア登録を検討している。理事各位のご意見を受けて、会員増強プロジェクトで検討していただきたいとの発言があった。

2) JSAF 規程 5 の改定 (規則 76 関連)

増田ルール委員長から資料に基づき、RRS76の改定に伴うJSAF規程5の改定について再提案があった。

前回理事会協議事項で、セーリング競技規則76(艇または競技者の排除,以下RRS76)の本年1月の改定に伴い、同規則に対する日本セーリング連盟規程5(以下、JSAF規程5)の改定試案を4つ提示し検討いただきました。ルール委員会で再検討した結果、JSAF規程5の削除を提案するとの発言があった。

<報告事項>

1) 平成26年度JSAF行事予定(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成26年度JSAF行事予定(案)について報告があった。

2) ISAF 総会&ASAF 総会報告

堤国際委員長から資料に基づき、2013年ISAF年次総会及び2013年ASAF総会について報告があった。

2013年ISAF年次総会における主なトピックは、2020年東京オリンピック種目に470級男女別種目として残れるかが注目された。その他、IFDS(国際障害者セーリング協会)がISAFに正式に統合された。外洋艇計測のレーティングシステムはまずは計測データの共有で第一歩を踏み出した。ISAF総会に先立って、アジアセーリング連盟の総会が開催され、アジア内でのイベント交流を進めてのサーキット構想が進められている。特筆すべきは、河野会長がイベント委員会で東京オリンピック招致に関してISAFのサポートに感謝の意を表すことができたことと、現状報告と資料配布の機会を持つことができた。また、ブラジルと日本との協力関係を進めるという構想も両国会長のミーティングで実現に向う合意に達することができたとの発言があった。

3) レース委員会 JSAF 公認・後援申請等

前田専務理事から資料に基づき、大会の共同主催・公認・後援の申請状況について報告があった。連盟ホームページに公開しているとの発言があった。

4) JSAF ホームページ&ウェブ化

柳澤広報委員長から資料に基づき、JSAFホームページ施策について報告があった。

前回理事会において、J-SAILINGを誌面からWEBに移管しつつ、年鑑版として1号のみ誌面発行することで了承されたが、連盟協賛各社に多大な迷惑がかかることを勘案すべきとの意見をいただき、2014年度はJ-SAILINGを年4回刊行する試算を提案することにした。また、JSAFホームページ・リニューアル事業の選定会社は、3社の応札で見積もりと比較コメントを提出したとの発言があった。

前田専務理事から、J-SAILINGを年4回刊行する来年度予算にしたことと会員システムも検討することにしたとの発言があった。

平井理事から、ホームページ・リニューアル選定業者はセーリングを理解していることから、会員へのメール配信もお願いしたいとの発言があった。

柳澤委員長から、メルマガ配信は考えているとの発言があった。

植松副会長から、WEBオープンは6月1日、J-SAILINGは年4回発行の予算で考えているとの発言があった。

河野会長から、スポンサー対応は一定期間をみているが、紙ベースでのJ-SAILINGが必要か、財政状況と勘案するとの発言があった。

中澤理事から、WEB運営費とWEBマスターへの委託費は別契約かとの質問があった。

平井理事から、WEBバナー広告などの活用はどうかとの質問があった。

柳澤委員長から、会員メールアドレスを登録していただき、広告を直接メールできればスポンサーメリットを PR できる。個人情報の問題もあるが、メールアドレスを取得する方法も考えるとの回答があった。

河野会長から、加盟団体へ会員のメールアドレスは必要記載事項とすることを徹底させるようにとの発言があった。

柳澤委員長から、SEO 対策、会員検索システム、会員外への PR もホームページを利用して運用していきたいとの発言があった。

5) パースプロジェクト

西岡オリンピック強化委員長から資料に基づき、パースプロジェクトについて報告があった。

パースプロジェクトの目的は、強化選手の大型化に取り組むべきであることを背景に、レーザーラジアルを中心に強化プログラムを組んで、体格の大きい選手を育成する。シングルハンド選手がダブルハンド選手に移行することも視野に入れる。概要は、U21 男女を対象をととして、レーザーラジアルを使用艇にする、パース派遣候補選手は公募にて選考するとの発言があった。

6) 420 寄付金募集 / チャーター艇購入

斎藤理事から資料に基づき、420 チャーター購入ならびに寄付金募集について報告があった。

2015 年インターハイを和歌山県定点開催に合わせて、420 艇を約 60 艇揃える必要がある。将来の艇普及を考慮すれば、日本でのビルダーを育てる必要があると判断し、奥村ボートと辻堂加工に発注する。また、130 隻配布事業は 6 千万円の予算を見込んで開始したが、円安の影響を受けて 2 千万円超の資金不足となることから、引き続き、420 級購入資金援助をお願いする。公益財団法人への寄付金は免税取り扱いとできるので理事各位には協力していただきたいとの発言があった。

斎藤威普及委員長から資料に基づき、制式艇種の普及に関する取り組みの状況について報告があった。

昨年度から 3 年計画で配布を開始したが、昨年度は 40 艇、本年度は 50 艇配布した。本年度は案内と配布を普及委員会で行うとともに講習会を開催した。来年度は 420 配布事業の最終年度となるが、配布枠を残している 20 道県に募集をかけている。また、シングルハンドについても同様に JSAF の支援を期待しているとの発言があった。

平井理事から、奥村ボートと辻堂加工への発注した艇の所有権は JSAF になるのか質問があった。

齋藤理事から、公益事業として貸与させる目的として、和歌山 NTC と覚書を交わす。JSAF に所有権があるとメンテナンスや保険などの責任があるとの発言があった。

西岡副会長から、2015 年インターハイにはフネを揃えなければならない。国内ビルダーを育てる目的で 2 社に発注することは和歌山県では困難であることから、JSAF で対応することにしたとの発言があった。

7) JOC 競技別強化センター

森山副会長から資料に基づき、JOC 競技別強化センター公募の件について報告があった。

選手の育成・強化の拠点として JOC は各競技団体に対して最大 3 ヶ所の競技別強化センターを認定している。現在、セーリング競技には和歌山、唐津、葉山新港が認定され拠点として活用している。今回、競技別強化センターの残る 1 拠点を公募する。これまで、神奈川県江の島、山口県光、愛知県蒲郡、鳥取県境港の 4 ヶ所から応募申請が届いた。条件のウエイト付けをした比較表から、推薦候補場所を検討するとの発言があった。

8) 日本財団助成事業申請

斎藤普及委員長から資料に基づき、日本財団助成事業について報告があった。

平成 26 年度の日本財団助成事業に「セーリングパーク構想調査研究事業」ならびに「セーリングキャンプ研究事業」の 2 事業を申請したとの発言があった。

中澤理事から、キールボート強化委員会と共同事業である「セーリングパーク構想調査研究事業」について説明があった。既に開催している大学対抗マッチレースはキールパークボート構想に近い事業で成功しているため、今後は協力していただけるマリナーに新事業として提案していきたい。セーリングパーク施設ができれば、世界大会などを誘致することも可能であるし、セーリングクリニックやアジアサーキット開催など国際レースを多く開催することができるとの発言があった。

9) 環境コンテスト審査結果

永井環境委員長から資料に基づき、環境コンテスト審査結果等の報告があった。

環境コンテスト審査結果は、21 件の応募を審査した結果、「ストップアイドリング 残したいのはきれいな海」(社団法人江の島ヨットクラブジュニア部) と「リサイクルセールを活用したユース」(NF Friends) を採択し補助金を支給した。東京国体におけるエコバックワークショップは、国体での初めての試みとして、不要になったセールからエコバックを作るワークショップを開催した。両事業ともに環境の啓発活動として一定の評価を得ることができたとの発言があった。

10) オリンピック準備進捗

小山オリンピック準備委員会副委員長から資料に基づき、オリンピック準備進捗状況について報告があった。

10月1日の第1回準備委員会では、1964年当時の東京オリンピックの資料を入手した上で当面の活動方針を確認した。12月7日の第2回準備委員会では組織図を確認した。ISAFへのプレゼン資料の内容には、セシウムなどの水質を専門家による定期的な調査を継続して報告するとの発言があった。

11) 落水事故対策&メンバー保険

植松副会長から資料に基づき、「危機管理委員会(仮称)ワーキンググループ」の設置について報告があった。

本年、セーリング活動において落水事故が多発したことを受けて、外洋系専門委員会委員長各位に緊急対策会議を招集し、落水事故を未然に防止するための対策について検討した。問題は、事故が発生した後、事故情報がクローズされ、正確な情報が伝わらず、憶測や噂先行の不確かな伝達になっていることで、その解決として「危機管理委員会(仮称)ワーキンググループ」を設置して検討することにしたい。また、大坪外洋安全委員長から加盟・特別加盟団体を通じて、全てのセーラーに発信された「安全にセーリングを楽しむために～自然に対峙し、自らに向き合う～」は一読いただきたいとの発言があった。

坂谷理事から、外洋東海では昨年の沖縄東海レースの事故から、保安庁の指導・マニュアルが整備できている。ワーキンググループに参加、協力していくとの発言があった。

植松副会長から、公的機関からのJSAF公表は必要であるとの発言があった。

児玉常務理事から資料に基づき、平成25年度JSAFメンバー保険に関わる報告があった。

本年は5件の死亡を含む事故が発生した。JSAFメンバー保険の被保険者の年齢範囲で問題となった東京ヨットクラブの落水事故の保険については、今後はJSAF総務委員会内に保険委員会を再編させて、メンバー保険のあり方について検討して、予算化させたい。あまりにも事故が多いと保険料の見直しもあるとの発言があった。

鈴木常務理事から、JSAF保険全般に関しては総務委員会で検討するとの発言があった。

剥岩理事から、東京ヨットクラブの落水事故では、年齢範囲があることは知らなかった。JSAFに保険請求された場合の対処はどうするのか質問があった。

児玉常務理事から、JSAFホームページ上で約款を掲載している。保険代理店を変更する際にも理事会報告しているとの発言があった。

坂谷理事から、保険会社を変更して保険料は確認したが、会員の立場では年齢範囲があることを認識していないとの発言があった。

鈴木常務理事から、年齢範囲については説明責任があった。当該メンバーには詫びて

対応するとの発言があった。

坂谷理事から、メンバー保険は JSAF 登録メリットとしてうたっていることから、負担するサイドも一緒に年齢とコストのバランスを考えて検討するべきであるとの発言があった。

平井理事から、JSAF メンバー費 6500 円の保険料内訳相当分やメンバー保険の約款も認識していないことから、JSAF に関係する保険は任意にするべきとの発言があった。

吉田委員長から資料に基づき、IRC 申請の推移の報告があった。

IRC 証書発行実績数は 11 月末で発行証書枚数は 407 枚である。世界的に IRC 取得状況は減少しているが、日本だけが増加をした。これは日本全国のクルーザーの主要レースに IRC 委員会がサポートしていることやオーナー各位にプロモーションしている結果であるとの発言があった。

12) 平成 26 年度事業計画と予算提出依頼

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 26 年度事業計画と予算提出について各委員会委員長に依頼するとの報告があった。また、平成 24 年度スポーツ振興基金およびスポーツ振興くじの実態調査について報告があった。また、当連盟の監査法人である千葉第一監査法人の野口会計士との契約を解除し、後任候補者を選定するとの発言があった。

13) 平成 25 年度会計中間報告 (9 月末)

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 25 年度 9 月末予算管理月報について報告があった。

14) 平成 25 年度メンバー登録数集計 (11 月末)

鈴木常務理事から資料に基づき、JSAF メンバー登録数実績について報告があった。
平成 25 年度メンバー登録数は総合計 10,001 名となった。会員増強プロジェクトは、タモリカップや東京国体と同様に積極的にイベント会場に出向き、その場でメンバー登録ができる制度を構築する。 J-SAILING を通じてメンバー増強を達成している団体の成功事例を紹介して参考にさせていただく。 5 年以内に会員数 15000 人を目標とする。理事各位 5 人紹介いただければ年 150 人増加になるとの発言があった。

15) 平成 25 年度通常第 2 回理事会議事録

前田専務理事から資料に基づき、平成 25 年度通常第 2 回理事会議事録 (案) について報告があった。

16) その他

山田理事からレディース委員会の資料に基づき、「スポーツ祭東京 2013」第 68 回国民
体育大会セーリング競技におけるチャイルドルームの報告があった。本大会に柔道連盟
の視察があった。その後柔道連盟から千葉で開催される大会で同様な対策を試みる予定
とのことから、次回にその視察報告を提示したいとの発言があった。

前田専務理事から資料に基づき、日本アクセスクラス協会から日本ハンザクラス協会に
名称変更の報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、アンチドーピングシンポジウムの案内について報告が
あった。

前田専務理事から、若洲ヨットハーバー陸置きのお知らせ、総務省より冬季節電対策要請に
関する通達について報告があった。

前田専務理事から、平成 26 年 1 月 25 日に全国代表者会議、JSAF 新年会を開催する
との案内があった。

平成 25 年度通常(第 3 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、
議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 25 年 12 月 7 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 末 木 創 造

議事録署名人 理 事 高 間 博 之

副 会 長 西 岡 一 正

副 会 長 植 松 眞

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 前 田 彰 一

常 務 理 事 鈴 木 修

常務理事 児玉 萬平

監 事 浪川 宏

監 事 栗原 博

監 事 中村 隆夫